

経験者採用試験の受験を考えている方へのメッセージ～採用者の座談会～

本年度も経験者採用試験に合格して各府省に採用された方々に、公務員へ転職しようと思ったきっかけなどについて語っていただきました。

ご協力いただきましたみなさま

栗田康平氏 会計検査院第5局上席調査官（特別検査担当）付・調査官  
（平成29年度経験者採用試験（係長級（事務））

内山重輝氏 農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課・業務係長  
（平成30年度農林水産省経験者採用試験（係長級（技術））

渡邊学氏 経済産業省事故収束対応室・係長  
（平成30年度経験者採用試験（係長級（事務））

加賀谷洋輔氏 国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課・係長  
（平成30年度経験者採用試験（係長級（事務））

星野さやか氏 観光庁国際観光課・係長  
（平成30年度観光庁経験者採用試験（係長級（事務））

質問1：まずは簡単に今の仕事と前の仕事について、それからなぜ公務員に転職しようと思ったのかを教えてください。

会計検査院（会）

栗田氏：前職は監査法人で、公認会計士として4年と少し勤務し、大手メーカーや商社の会計監査を行っていました。私が元々、公認会計士となったのは、自身の身に付けた専門知識を特定の誰かのために役立てることもすばらしいと思う一方で、せっかくなので公共のために役に立てたいなと思ったためです。監査法人では、民間企業を担当していましたが、ある程度監査に係る知識を得た後は、パブリックセクターの監査、コンサルをやってみたいと考えていました。そのような中、HPを見て、会計検査院が経験者採用試験で募集していることを知り、継続的に自身のやりたいことが行えるのではないかと考えて志望しました。



司会：係長合同の採用者数の内訳でみた場合、会計検査院は例年1名程度しか予定していませんが、受験する上で不安はありませんでしたか。

栗田氏：確かに不安はありましたが、何が何でも転職しようというよりも、チャンスがあるんだから挑戦してみようという気持ちで受けました。公認会計士であれば任期付職員という選択肢もあるかも知れませんが、長期的な観点から業務に取り組めればという思いもあり、経験者採用試験を受験しました。

司会：同じく公認会計士から転職した方から、そうは言っても、監査と検査は、やり方が違って、適応にすごく苦労したなどという話も聞きますがどうですか。

栗田氏：私は昨年度の採用でしたので、1年と2か月業務に従事したことになりますが、自身の経験を踏まえると、監査と検査はこんなに違うのかと思うことも多かったかも知れませんが、現在は、特定の省庁ではなく、特定のテーマで横断的に政府出資法人を検査するという仕事をしています。

## 農林水産省（農）

内 山氏：前職は、一般財団法人に21年間勤務し、主に食品試料や河川水・土壌などの環境試料を分析するという環境計量証明に携わっていました。転職は、子供が大学受験に挑戦するに当たって、父親も試験に挑戦する姿を見せてやりたいという思いがきっかけとなりました。また、私の専門が生物・化学であり、もともと、中学、高校のときからサイエンスの面で農業に関わりたいという思いがあったからこそ、農林水産省を志望したという経緯があります。今思えば、そのきっかけも含めて、これまでに辿ってきた道が全て現在につながったのだと感じています。



司 会：今の仕事も前職と関係が深いのですか。また、入省前後でギャップを感じたことはありましたか。

内 山氏：現在は、消費・安全局に勤務しており、消費者側からの視点に立った、畜産物の食品としての安全性を確保するという事務に携わっています。7割くらいが今までの仕事を活かせる内容で、残り3割くらいは、私は畜産に関しては素人なので、勉強が必要という状況です。特に、生物や化学分析等による科学的評価という点に関して、今までの知識を最大限に活用しています。私の世代は、官僚主導による政治などというフレーズをニュースで聞いていたこともあり、ともすれば独善的な雰囲気がある官僚機構にはあるのではないかと感じていたのですが、入ってみると、国民の声や国民の代弁者である国会議員の声にすごく敏感で、こんなにも世間の声を気に掛けて仕事を進めているのかと感心しました。

## 経済産業省（経）

渡 邊氏：前職では重電メーカーで、火力・原子力発電用タービン発電機的设计に約4年間従事しました。働いていく中で、自身の関心が機械的设计という技術的事項から、原子力発電の将来性や再生可能なエネルギーの推進などエネルギー政策全体に移っていき、国の方針を決める仕事に携わりたいと感じたため、公務員への転職を考え始めました。



司 会：入省前後のイメージにギャップはありましたか。

渡 邊氏：入省前は、とにかく激務というイメージを持っていましたが、実際に働いてみると、帰れるときには早く帰るという雰囲気があり、いい意味でギャップを感じました。確かに国会対応が必要となった場合には、帰りが遅くなることもありますが、全体的にはプライベートの時間をきちんと確保できる環境だと思います。

司 会：今の仕事は、入省前にやりたいと思っていた仕事ですか。

渡 邊氏：入省前にやりたいと思っていた仕事ができます。私は、原子力関係の仕事を志望しており、今の仕事は東京電力福島第一原発の廃炉を東京電力と協力して進めて行く仕事です。日々の業務では発電所の構造や様々なデータ（数字）をよく理解する必要があり、前職の知識がとても活かしているので、転職後の配属先として馴染みやすい部署に配置していただいたと感じています。

#### 国土交通省（国）

加賀谷氏：前職では、保険会社を顧客とするシステムエンジニアとして働いており、今後の自動運転社会に向けて、ビッグデータやAIを活用してどのように新しい保険を提供できるかという企画をしていた時期がありました。その中で、技術面もちろん大事であるものの、法整備や政策を通して社会にどう実装させていくか、ということが非常に重要だと感じました。そこで行政という分野に関心を持つようになり、その後、自分で調べたり、友人の話を聞いたりしていくうちに国土交通省への入省を希望するようになりました。



司 会：今の仕事はどのようなことをされていますか。また、国土交通省は所掌する分野が非常に多岐にわたりますが、入省後に自身がやりたい仕事を担当できるかという不安はなかったですか。

加賀谷氏：現在は、交通政策白書の編集などに携わっており、白書内容について、自動車局や航空局といった省内の部局との調整や、国会議員への事前説明などを担当しています。私は、国土交通省の所掌の範囲である限り、特定のこの仕事でなければといったこだわりがなか

ったので、それほど不安はありませんでした。というのも、私自身の関心の軸には、「最終的に、人が生活したり移動したりする空間をどう変えていくか」というのがあって、前職で関わっていた自動運転というテーマも、また、河川やまちづくりなど国土交通省の他の分野も、全てその軸につながる一つのパーツというふうに捉えているからです。

司 会：思っていたのと違ったところがありましたか。

加賀谷氏：上下関係が厳しいというイメージがありましたが、実際には職場の風通しがよいと感じました。その意味では、雰囲気は民間と変わらないという印象です。

観光庁（観）

星 野氏：私は新卒からホテルで勤務していましたが、ホテルや観光業が抱える問題を切に感じており、観光業を元気にしたいと思い志望しました。特に、観光業は、人材不足、長時間勤務等の問題を抱えており、海外から多くの観光客が来る一方で、受入側の体制は疲弊しているため、それらを解決していきたいと思っています。また、自分自身の問題として、30歳を超えた辺りから、今後どのように働いていこうかと考え、新しい環境にチャレンジしたいと思ったことも影響しています。現在は、企業会議（Meeting）、報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字を取った「MICE」を推進する部署で働いており、MICE人材の育成と経済波及効果の把握を担当しています。



司 会：現在、育児中とうかがっていますが、働き方という点ではどうですか。

星 野氏：正直、入庁直後は、新しい環境に慣れることに苦労しました。今は、仕事にもだいぶ慣れてきたことと、周りの方の配慮のおかげで自分のペースで仕事ができるようになってきました。また看護休暇や時間休などの制度が整っているため、子どもの体調不良時には、非常に助かっています。

質問2：試験の対策としてどんなことをしましたか。また、何かアドバイスがあればお願いします。

(経)

渡 邊氏：人事院のHPで受験案内をよく読み、まずは働きながら勉強できる内容か確認することから始めました。私の場合は新卒向けの国家公務員採用試験の受験資格もあり、そちらも念頭に筆記試験の対策をしていたので、経験者採用試験に向けては主に面接対策に力を入れました。具体的には知人に協力をお願いし、志望動機や面接カードの添削や面接練習をしてもらいました。経験者採用試験は政策の中身により近い係長級からスタートできるので、とても魅力的な試験だと思います。また情報収集も積極的に行いました。例えば、経験者採用試験はどのようなプロセスで進み、合格・入省後はどのような生活になるのかといった情報は、待っていても集まってこないなので、自分でアクションして情報を集めることが重要です。私の場合は経済産業省の人事課にお願いし、経験者採用試験で採用された方の話を聞く機会を設けていただき、大変貴重な話を聞くことができました。

(会)

栗 田氏：渡邊さんが言われるように情報を集めることは非常に重要だと思います。そして、経験論文試験及び面接の対策としては、前職の経験と今後取り組みたいことが論理的に整合しているかなどの確認を試験の2、3か月前から定期的に行いました。経験者採用試験はまだ歴史が浅く、巷にも情報の蓄積がないので受験するのは怖いと思いますが、自分の経験を軸に何ができるのかを説明できるように準備しておくことが重要だと思います。

(国)

加賀谷氏：人事院のHPに例題が掲載されていたので、それを確認して、基礎能力試験と政策課題討議試験は市販の参考書で勉強しました。経験論文試験に関しては、前職の昇格試験に当たって、これまでの業務上の成果を総括する機会があったので、それと並行して自身の強みなどを整理していきました。受験をして合格・採用されるかどうかは、面接によるマッチングの面が大きいと思うので、結果はどうあれ、前向きに向き合うのがいいと思います。また、私自身、実際に入省してからの仕事の内容は前職とかなり違いますが、社会人経験で培った調整力などの基本的なスキルは活かせる場面があるなど感じているので、受験生のみなさんご自身が経験したことに自信を持って受験や面接に臨まれるのがよいと思います。

(農)

内 山氏：基礎能力試験でいえば、判断推理、数的推理のほか、大学受験用の参考書を用いて英語を勉強しました。化学や生物の分野については、前職の業務で調べ物をしている際に過去の勉強を思い出しましたので、特段対策はしませんでした。また、面接対策は、WEB上にアップされている白書や年報を読み込みました。受験を考えているみなさんには、今置かれている現状を否定するのではなく、よい経験も悪い経験も自分のものとして受け止めて、勉強していくことをお勧めします。そうすれば、試験に受かる受からないは別として、落ち着くところに落ち着くのではと思います。

(観)

星 野氏：私は今回で3回目の受験でしたが、一番重きをおいたのは経験論文試験でした。そのため、「なぜ観光庁を目指すのか」、「どういう経験をして来て何ができるのか」の棚卸しを重点的に行いました。過去2回ほど不合格となりましたが、振り返ってみて、その2回では、自分がやりたいことばかりをアピールしたのがよくなかったのではと思っています。重要なのは、「今までこのようなことを経験したので、故にこのようなことを提供できます」という相手の目線に立ったアピールだと思いました。

質 問3：最後に、民間にない公務の魅力をお教えください。

(農)

内 山氏：公益目的の立場から、仕事を達成するための努力や勉強に対して自身のエネルギーを惜しみなく注入できることが最大の魅力であると考えています。民間企業では、組織の存続が自己目的化してしまい、設立当初の趣旨や存在意義を考えてエネルギーを注ごうとしても、適わないこともあります。それに対して、国の場合は、設立の趣旨や存在意義が重要であるので、仕事そのものにエネルギーを注ぐことができます。

(経)

渡 邊氏：企業は利益を出すことがミッションの一つということもあり、どうしても短期的な視点になりがちな面があります。一方で公務はより長いスパンで考え、将来を見据えて何をすべきかを客観的に判断し、スケールの大きな仕事をすることが一番の魅力であると思います。

(会)

栗 田氏：監査法人の業務とは違うとはいってもチェックという意味では同じ機能も有しています。ただ、私が会計検査院に転職して思ったのは、会計検査院では徹底的に、本心から納得できるまで業務に取り組める環境があるということです。

(観)

星 野氏：民間ではできないような、調査事業や、一社会にインパクトを与える仕事ができることが魅力だと思います。現在担当している業務は、関連予算の規模も非常に大きくなっています。その意味で、日本の産業に影響を与えるという大きな話は国家公務員ならではの仕事と感じています。まだまだ仕事と家庭の両立には苦労していますが、同じような状況の方でも、熱い思いがあれば、民間ではできないダイナミックな仕事ができるので、ぜひ挑戦してほしいと思います。

(国)

加賀谷氏：民間企業であれば、一つのプロジェクトに対して、企業の立ち位置に応じて、IT企業であれば技術的な観点から、商社であれば投資の観点からアプローチすることとなりますが、公務では、一つのプロジェクトに対して、それを社会にどう実装していくかについて、様々なステークホルダーの観点で考えて実行できるということが出来る点が魅力です。もちろん、様々なステークホルダーと調整することは難しいことでもありますが、調整業務というのは公務に限らず民間企業でも必要ですし、その範囲が広がるということは、よりスケールの大きなことを行うということの表れなので、それを前向きに受け止められれば非常に面白い仕事だと思います。

～ご協力ありがとうございました～